

豊田市駅周辺地区

(愛知県 豊田市)

- 計 画 期 間 平成 16 年度～平成 20 年度
- 面 積 211ha
- 交付対象事業費 4,210 百万円
- 市人口 422,865 人 (地区内人口 12,125 人)

ポイント

クルマのまち豊田市におけるユニバーサルデザインによる「歩行者空間の再構築」

地区概要

これまでの道路などの「クルマ」中心の整備から「人」に重点をおき、環境に配慮した「クルマ」と「人」の共生モデルとなる、ユニバーサルデザインによる「まちづくり」を推進することにより、「中心市街地の活性化」を図る。

目 標

「人」を中心とした事業の展開により来街促進を図り、中心市街地の活性化を図る

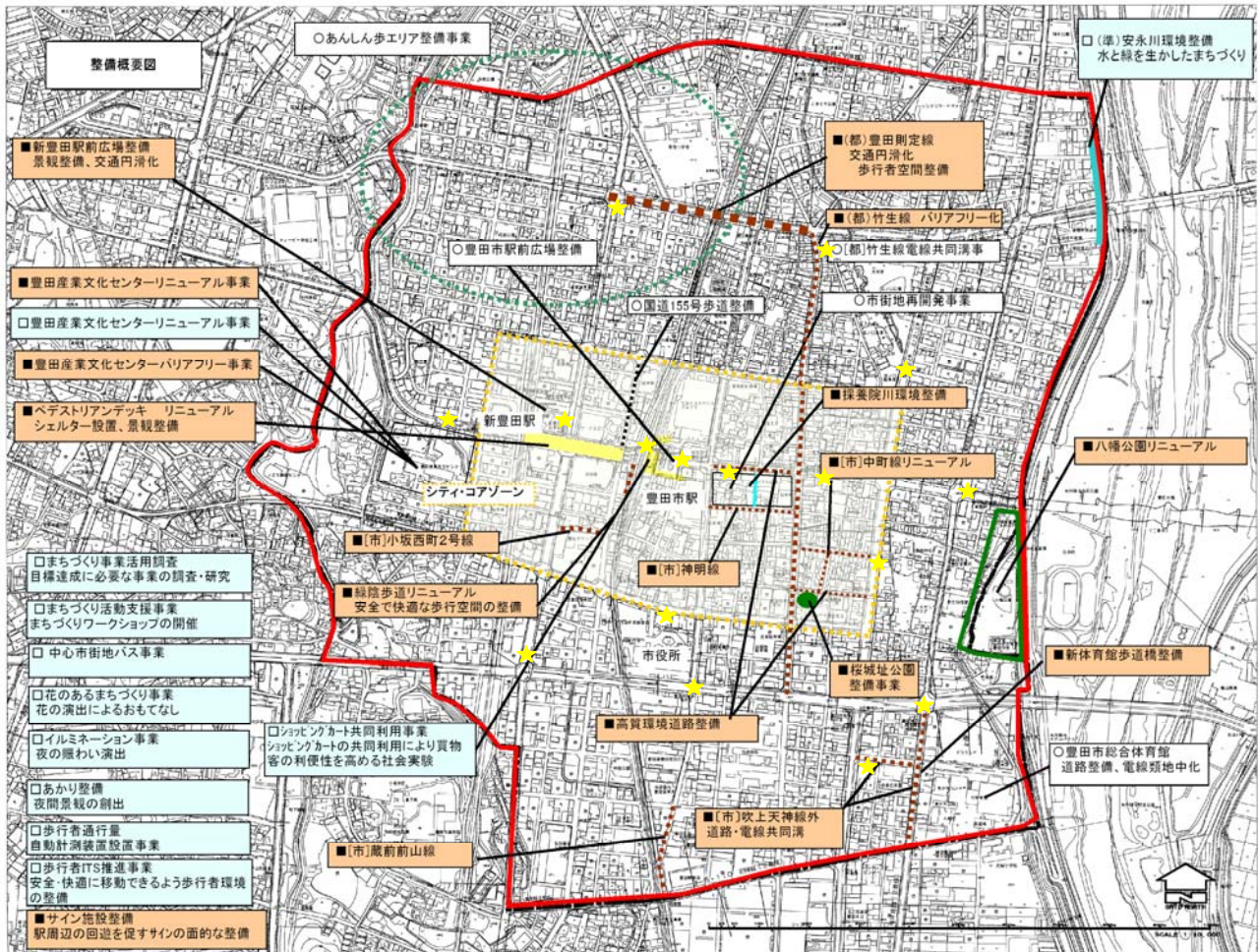
指 標

都市の魅力、快適性の向上により数値の増加を図る

デッキ歩行者数	23,128 人 (H15)	→	32,064 人 (H22)
商業販売額	28,327 百万円/年 (H14)	→	31,307 百万円/年 (H20)
従業者数	1,896 人 (H14)	→	2,597 人 (H20)
居住者数	11,379 人 (H14)	→	12,125 人 (H21)

事業内容

- 基幹事業 (3,292 百万円) → 道路 (6 路線)、公園 (2 カ所)、ペDESTリアンデッキリニューアル (A = 2,200 m²)、緑陰歩道 (L = 50m)、産業文化センターリニューアル (A=680 m²)、歩行者案内板整備 (69 箇所)
- 提案事業 (918 百万円) → 中心市街地バス事業、ショッピングカート共同利用実験、花のあるまちづくり事業、イルミネーション事業、歩行者 ITS 歩行環境整備



地区の現況と課題

豊田市の中心市街地は、旧挙母町時代からこの地域の中心市街地として発展してきましたが、近年は人口も減少傾向にあり、核となる広域商業施設の相次ぐ撤退により、賑わいが大きく低下していました。市民意識調査においても、中心市街地の活性化は、重要度が高く、満足度が低い施策評価結果となっており、早期対応が強く望まれています。歩行者空間の不足や、高齢社会に対応したバリアフリー対策等の整備が不十分であるため、来街者の足を遠ざけることとなり、地区全体としての集客力低下の要因となっていました。

提案事業の特徴

中心市街地バス事業

環境に配慮したまちづくりを進めるため、玄関口バスを電動車いす対応型で最新の排出ガス基準をクリアした車両に更新。利用者の利便性向上を図るとともに需要予測、運行形態等の調査を行いました。

ショッピングカート共同利用実験

電波タグをつけたショッピングカートを共同で利用することにより、買物客が荷物を持って移動する負担を軽減。利用者の利便性の向上を図りました。

花のあるまちづくり事業

来街者へのおもてなしの心からペDESTリアンデッキや広場、幹線道路においてフラワーポール、花壇、ハンギングバスケット、プランターを設置しました。手入れは地元のボランティアが実施し、まちづくり機運の向上も図られました。

イルミネーション事業

冬季の来街促進のため、イルミネーション事業を展開。実行委員会を立ち上げ、民主導で事業を展開し効果をあげました。

まちづくりの効果、持続的取組み

意識改革

共働※によるまちづくりを進めた結果、地域が自主的に今後のまちづくりに関するアンケートを実施するなど、地域のことは地域で解決するという意識改革が図られました。

住民による取組み

地元住民や商店街による「八日市」や「まちかど博物館」の開催、街路植栽の自主管理や道路を使ったイベントなど、まちづくり協議会から地域全体への波及効果も現れています。今後も、「打ち水イベント」や「イルミネーション」「花かざり」等の開催が予定されるなど、市民や民間主導の持続的なまちづくり活動の基礎が形成されました。

※豊田市では市民と市が協力・連携する活動のほか、市民と市が共通する目的に対して、それぞれの判断に基づいて、それぞれ活動することも含んで、「共に働き、共に行動する」ことを意味する『共働』という言葉を使用しています。



歩車共存のみちづくり



中心市街地バス



ショッピングカート共同利用実験



ボランティアによる花の管理



民主体のイルミネーション事業



【挙母まつり】

毎年 10 月に開催され、山車の引き回しが行われる勇壮なまつり。バリアフリー化された道路はまつりの舞台としても活かされています。

豊田市長 鈴木公平のコメント

多様化する都市の課題や、合併により拡大した市域の地域課題に対応するためには、住民自らが考え行動する地域力の強化が必要と考え、市民と行政がパートナーシップ（共働）を発揮し、市民の意思をより一層施策に反映することができる取組をすすめてきました。中心市街地においては、「豊田シティセンターマネジメント（TCCM）」を設立し、まちづくり事業の官民推進体制の強化、拡充を図ってまいりました。市民・事業者・大学・行政が一体となった様々な施策の推進を図る「共働によるまちづくり」の取組が、「持続的なまちづくり活動」へと結びついたと考えております。

たきょう 竹生線沿線4自治区まちづくり協議会会長 川上道之氏のコメント

豊田市の中心市街地を南北に走る^{たきょう}竹生線。リニューアルに伴い沿線の4つの協議会による話し合いは、各協議会の「みち」に対する思いの違いから意見がまとまらず、困難を極めました。繰り返し行われた協議会ですが最終的には意見が一つにまとまり、行政による道路事業、商店街による街路灯事業の官民一体となった整備を実現することが出来ました。4年間にわたる協議会活動で地域住民のまちづくりに対する意識が変化し、「我々がまちに出来ること」という視点で様々なイベントを開催するなど今後も「みちを活かしたまちづくり」「ひとがふれあうまちづくり」を展開していきます。

桜町ほうだら会（まちづくり協議会）

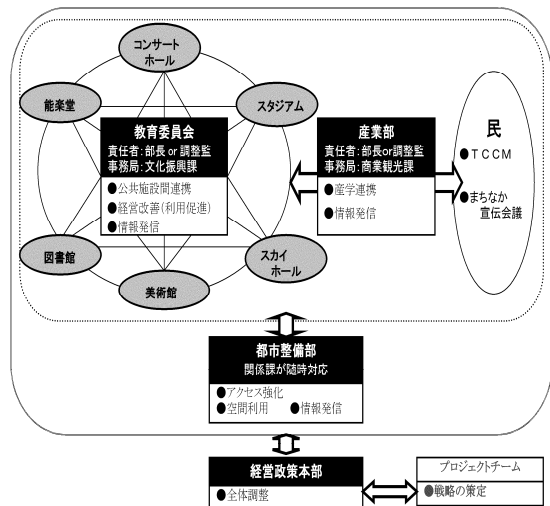
鈴木万衛氏のコメント

商店街を東西に貫く市道は地域住民の生活道路でもある。来街者の多くは車を利用し、毎月八日のイベント時には多数の高齢者が街路を行き来する。

人と車が共生し、安心・安全と快適環境を目指したまちづくりは、地域住民が主体となり、計画段階から週に何度も会合がもたれた。

毎回テーマを決め、ワークショップ形式で進めるが、順調に一步一步進んだかと思えば、時には大きく後退してしまうこともしばしばあった。

問題解決に不足している部分を官民が互いに補い、共働によるまちづくりができたことは、私たち地域住民の大きな自信に繋がった。このことを誇りに思いこれからもこの街でずっと暮らしていきたい。



官民共働の推進体制の強化